# 言い訳

このスライドはAIが作成したんなんかいろいろ適当です。 github にいろいろ置いといたからそっち読んで!

# コンピュータの構成と設計

# 第2章 演習問題解説

パタへネ2章の演習問題1-22を通して学ぶ MIPS アセンブリ言語とコンピュータアーキテクチャ

### MIPSとは?

#### MIPS (Microprocessor without Interlocked Pipeline Stages)

- 1980年代にスタンフォード大学で開発されたRISCアーキテクチャ
- RISC: Reduced Instruction Set Computer
- シンプルで規則的な命令セット
- 教育用プロセッサとして広く使用

#### 特徴:

- 32ビットアーキテクチャ
- 32個の汎用レジスタ
- 固定長命令 (32ビット)
- ロード・ストア型アーキテクチャ

### MIPS vs x86の違い

項目	MIPS	x86
設計思想	RISC	CISC
命令長	固定(32ビット)	可変(1-15バイト)
レジスタ数	32個	少数 (歴史的制約)
メモリアクセス	ロード・ストア	レジスタ・メモリ
学習コスト	低い	高い

#### なぜMIPSを学ぶ?

- アーキテクチャの基本概念を理解しやすい
- 命令セットがシンプルで規則的
- 他のアーキテクチャへの応用が効く

# MIPSレジスタ構成

### 32個の汎用レジスタ (32ビット)

レジスタ	名前	用途
\$0	\$zero	常にO
\$1	\$at	アセンブラー時レジスタ
\$2-\$3	\$v0-\$v1	戻り値
\$4-\$7	\$a0-\$a3	引数
\$8-\$15	\$t0-\$t7	一時レジスタ
\$16-\$23	\$s0-\$s7	保存レジスタ
\$24-\$25	\$t8-\$t9	一時レジスタ

# MIPSレジスタ構成(続き)

レジスタ	名前	用途
\$26-\$27	\$k0-\$k1	カーネルレジスタ
\$28	\$gp	グローバルポインタ
\$29	\$sp	スタックポインタ
\$31	\$ra	リターンアドレス

# MIPS命令形式

#### 3つの命令形式

#### R形式 (Register)

```
[opcode:6][rs:5][rt:5][rd:5][shamt:5][funct:6]
例: add $t0, $s1, $s2
```

#### I形式 (Immediate)

```
[opcode:6][rs:5][rt:5][immediate:16]
例: addi $t0, $s1, 100
```

### J形式 (Jump)

```
[opcode:6][target:26]
例: j 0x400000
```

## MIPS基本命令

#### 算術演算

```
add $t0, $s1, $s2  # $t0 = $s1 + $s2
addi $t0, $s1, 100  # $t0 = $s1 + 100
sub $t0, $s1, $s2  # $t0 = $s1 - $s2
```

#### メモリアクセス

```
lw $t0, 0($s1)  # $t0 = Memory[$s1]
sw $t0, 4($s1)  # Memory[$s1+4] = $t0
la $t0, array  # $t0 = &array
```

#### 制御フロー

```
beq $t0, $t1, label # if ($t0 == $t1) goto label
j label # goto label
jal function # call function
```

### SPIMシミュレータ

#### **SPIM (MIPS Simulator)**

- MIPSアセンブリプログラムを実行できるシミュレータ
- 実際のMIPSプロセッサの動作を模擬
- デバッグ機能付き

#### 使用方法:

```
# ファイルを実行
spim -file program.s

# 対話モード
spim
(spim) load "program.s"
(spim) run
```

# 演習問題の全体像

範囲	内容	ファイル例
1-4	基本演算・配列操作	enshuu1.s, enshuu3.s
5-6	数値表現・エンディアン	enshuu5.md, enshuu6.md
7-8	64ビット演算・アドレス	enshuu7.s, enshuu8.c
9-15	機械語・命令形式	enshuu9.s, enshuu12.s
16-22	アーキテクチャ拡張	enshuu17_1.s, enshuu22.md

## 演習1: MIPS基本演算

問題: f = g + (h - 5)

```
li $s1, 100  # g = 100

li $s2, 5  # h = 5

addi $s2, $s2, -5  # (h - 5)

add $s0, $s1, $s2  # f = g + (h - 5)
```

#### ポイント:

- addi で即値減算
- レジスタ割り当て: \$s0=f, \$s1=g, \$s2=h

# 演習2: C言語との比較

```
// C言語版
int hoge(int f, int g, int h, int i) {
   f = g + h + i;
}
```

#### 学習効果:

- 高級言語と低級言語の対応関係
- コンパイラの最適化理解

# 演習3: 配列操作と境界チェック

問題: arrayB[i] = arrayA[i-j] (境界条件付き)

```
sub $s3, $s3, $s4 # i - j sltu $t1, $s3, $t0 # 境界チェック(0 < i-j < 配列長) beq $t1, $zero, error # 条件違反時はエラー sll $s3, $s3, 2 # インデックス×4 (バイト単位) add $s3, $s3, $s0 # 配列ベースアドレス + オフセット lw $t2, 0($s3) # arrayA[i-j]を読み込み sw $t2, 32($s1) # arrayB[i]に格納
```

#### 重要概念:

- 配列インデックス計算(sll \$s3, \$s3, 2)
- 境界チェック(sltu)
- エラーハンドリング

## 演習4:ポインタ操作

```
int hoge2(int A[], int B[], int f, int g) {
    B[g] = A[f] + A[f + 1];
}
```

アセンブリだとやばそうなことでもできるね。

# 演習5: エンディアン形式

### OxABCDEF12の格納方法

	Little Endian	Big Endian
アドレス	值	値
0x00	0x12	OxAB
0x01	OxEF	0xCD
0x02	0xCD	OxEF
0x03	OxAB	0x12

### 余談

• 元ネタはガリバー旅行記

# 演習6:16進数→10進数変換

#### OxABCDEF12を10進数に

```
10 \times 16^7 + 11 \times 16^6 + 12 \times 16^5 + 13 \times 16^4 + 14 \times 16^3 + 15 \times 16^2 + 1 \times 16^1 + 2 \times 16^0 = 2,882,400,018_{10}
```

#### 計算過程:

- 各桁の16進数字を10進数に変換
- 位の重みを掛けて合計

# 演習7:64ビット加算

### arrayA[i] + arrayB[j] (64ビット)

```
lw $t0, 0($s6)  # arrayA下位32ビット
lw $t1, 4($s6)  # arrayA上位32ビット
lw $t2, 0($s8)  # arrayB下位32ビット
lw $t3, 4($s8)  # arrayB上位32ビット
addu $t2, $t0, $t2  # 下位32ビット加算
sltu $t0, $t0, $t2  # キャリー検出
addu $t3, $t1, $t3  # 上位32ビット加算
addu $t3, $t3, $t0  # キャリーを加算
```

#### 重要概念:

- 64ビット値の分割格納
- キャリー処理
- sltu でのオーバーフロー検出

### 演習8: C言語でのアドレス操作

#### 学習効果:

- C言語でのアドレス操作
- ポインタと配列の関係

## 演習9: 機械語形式

#### MIPSアセンブリ→機械語変換

#### 命令形式:

- I形式: opcode(6) + rs(5) + rt(5) + immediate(16)
- R形式: opcode(6) + rs(5) + rt(5) + rd(5) + shamt(5) + funct(6)

# 演習10: オーバーフロー処理

```
# 10.1: 加算
addu $t0, $s0, $s1 # オーバーフロー無視
# 結果: 0x50000000
# 10.2: add命令だとArithmetic Overflow例外
# 10.3: 減算
sub $t0, $s0, $s1 # 0xB0000000
# 結果: 0xB0000000
# 10.4: これは期待通りの結果
# 10.5: さらに加算
addu $t0, $s0, $s1 # Add A and B
addu $t0, $t0, $s0 # Add A again to the result
# 結果: 0xC0000000
# 10.6: 10.2時点でオーバーフローしてるんだからここもオーバーフローする
```

## 演習11: オーバーフロー範囲計算

\$s0=128の場合

add命令でオーバーフロー:

2,147,483,519 < \$s1 < 2,147,483,648

#### sub命令でオーバーフロー:

-2,147,483,649 < \$s1 < -2,147,483,519 #引き算の順序に依存せず

理由: 32ビット符号付き整数の範囲制限

### 演習12-13: 機械語解読

```
opcode=000000 (R形式)
funct=100000 (add命令)
rs, rt, rd = 10000, 10000, 10000 ($s0)
→ add $s0, $s0, $s0
```

#### **演習13:** Store Word命令

```
sw $t1, 32($t2) # 0x20 0x00 0x49 0xad (Little Endian)
```

## 演習14-15: 命令デコード

演習14: opcode 0 rs 3 rt 2 rd 3 shamt 0 funct 34

opcode=0はR形式命令, funct 34で sub命令

sub \$v1, \$v1, \$v0 # funct=34はsub命令

演習15: opcode 0x23 rs 1 rt 2 const 0x4

opcode=0x23はlw命令, rs=1は\$atレジスタ, rt=2は\$v0レジスタ

lw \$v0, 4(\$at) # opcode=0x23はlw命令

## 演習16: アーキテクチャ拡張

#### MIPSレジスタファイルを128個に拡張

#### 影響:

- R命令: レジスタ指定に7ビット必要 → 追加6ビット
- **I命令**: レジスタ指定2つ → 追加4ビット
- **命令長:** 32ビット→64ビットに拡張

#### トレードオフ:

- ✓ レジスタスピル減少
- × 命令長増加、メモリ使用量増

## 演習17: ビット操作

#### シフトとマスク操作

**17.1**: 44ビット左シフト (**そんなものはできない**)

```
sll $t2, $t0, 31 # 31ビットシフト
sll $t2, $t2, 13 # 追加13ビット (計44ビット)
```

17.2: 4ビット左シフト+マスク

```
sll $t2, $t0, 4 # 4ビット左シフト
andi $t2, $t2, 0xFFFF # 下位16ビットマスク(-1はandiにつかえません)
```

# 演習18: bit操作

演習18: 条件付きビット操作

```
sll $t2, $t0, 15 # 15ビット左シフト
srl $t2, $t2, 26 # 右のbitをすべて消す
sll $t2, $t2, 26 # 31-26にセット
sll $t3, $t1, 6 # 左側bitを6ビット左シフト
srl $t3, $t3, 6 # 右側bitを6ビット右シフト
or $t2, $t2, $t3 # $t2 = A | B
```

# 演習19: bitflip

演習19: bitflip

2の補数表現において、x + bitflip(x) + 1 = 0の関係があるのでそれを用いる。

```
sub $t2, $zero, $t2  # -A addi $t1, $t2, -1  # -A - 1
```

### 演習20-21:制御フロー

演習20: 配列要素のシフト演算

```
lw $t0, 0($s0) # C[0]読み込み
sll $t0, $t0, 4 # 16倍(左4ビットシフト)
```

#### 演習21: 条件分岐

```
lui $t0, 0x0101  # 上位16ビット設定
slt $t2, $zero, $t0 # 0 < $t0 ?
bne $t2, $zero, ELSE # 条件分岐
```

### 演習22: アドレシングモード

PC = 0x2000 0000からのジャンプ範囲

JAL命令 (疑似直接アドレシング):

範囲: 0×2000 0000 ~ 0×2FFF FFFC

• PC上位4ビット + 26ビット即値を 2ビット左シフト

#### BEQ命令 (PC相対アドレシング):

範囲: 0x1FFF 8000 ~ 0x2000 7FFF

• PC ± 16ビット符号付きオフセット × 4(この4は語長)

## まとめ

### 学習した主要概念

- 1. 基本演算: レジスタ操作、即値演算
- 2. **メモリ操作:** 配列、ポインタ、エンディアン
- 3. **64ビット演算:** 分割処理、キャリー検出
- 4. 機械語: 命令形式、エンコーディング
- 5. **制御フロー:** 分岐、ジャンプ、条件処理
- 6. **ビット操作:** シフト、マスク、論理演算
- 7. アーキテクチャ: 命令セット拡張の影響

### 次のステップ

- SPIM シミュレータでの実行
- ・パフォーマンス解析

## 参考資料とツール

#### 実行環境:

```
# SPIM シミュレータ spim -file enshuu1.s
```

#### 重要なMIPSレジスタ:

- \$s0-\$s7:保存レジスタ
- \$t0-\$t9:一時レジスタ
- \$v0-\$v1:戻り値、システムコール
- \$a0-\$a3:引数レジスタ

### オンラインツール

#### **Compiler Explorer (godbolt.org)**

- 様々な言語・アーキテクチャのコンパイル結果を確認
- C/C++からMIPSアセンブリへの変換を試せる
- リアルタイムでコンパイル結果が見える
- URL: https://godbolt.org/

#### Online Assembler and Disassembler

- アセンブリ ⇔機械語の相互変換
- MIPSを含む多数のアーキテクチャに対応
- 16進数ダンプの解析に便利
- URL: https://shell-storm.org/online/Online-Assembler-and-Disassembler